

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（北部会場）概要

テーマ：地方の図書館

演題：地方の図書館における図書館サービスの課題と可能性について

講師：是住 久美子 氏
田原市図書館館長、愛知県大学非常勤講師

会場：市民交流プラザふくちやま 3階 会議室 3-2、3-3 及びZoomによるオンライン開催

日時：令和4年11月11日（金）13時30分～15時30分

参加者数：35名（会場参加：9名 オンライン参加：24名）

概要：人口減少時代の地域を取り巻く状況を知り、地域の課題解決やまちづくりに貢献する図書館の可能性について理解を深めることを目的に、田原市図書館での実例を元に地方のライブラリアンとして、“まち”とどう関わっていくかについて学びました。

人口減少に伴い税収が減少し、自治体の財政が厳しいことを踏まえ、特定財源の確保や協賛金・寄付金を募るなど「稼ぐ」工夫も考慮し、中心市街地活性化など総合計画の中に図書館がどのように明記されているかを再度確認し、自治体全体を意識して図書館がどのように地域貢献できるかを考えていく必要があります。よく図書館だけの理想で語ってしまいがちですが、それでは他者の理解は得られません。

「まちづくり」とは、まちの人ならだれでも使える「公共財」を作り、育てていき、不要であればなくすことです。「公共財」は、みんなに何か良きことをもたらす何かで、誰かが使ってなくなることはなく（非競争性）、使う時に対価の支払いを強制しないもの（非排除性）を言い、例えば、おばあさんが家の周囲を清掃するような日常的な「ふるまい」であつても「公共財」として地域に良い影響をもたらしている立派なまちづくり活動と考えられます。「まちづくり」は時と場合によって使い方が異なり、時代によって変遷しています。町内会の活動から中央集権型の国土開発、住民運動、自助・公助に基づくコミュニティ、災害ボランティア活動、市民協働などへと発展しており、最近では紫波町図書館のあるオガールのような民間資金を活用したビジネスの手法を用いて行うケースも出てきています。

中央教育審議会の答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策」では社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくりを謳っており、住民の主体的な参加を得て、多様な主体の連携・協働と幅広い人材の支援により行われる社会教育が求められています。

以上のような状況において、これからの図書館に求められていることは、地域へ出向きニーズを掘り起こし、まちづくり活動をエンパワメントしていくことなのです。

田原市図書館では、市民と図書館との会議「かぶ会議」から様々な企画が生まれています。そこではそれぞれ個人がやりたいことを参加者全員で企画を温め実施までサポートしていきます。また、行政・議会支援を発展させた市職員が出前講座を行う「市政ほーもん講座」、住民と議員が気軽に話せる「議員とたはらトーク」など図書館の場としての公共性・敷居の低さ・広報力を活かした取組を行っています。このような活動は、相乗効果が期待でき、人手不足、資金不足の時代に図書館だけでは出来ないことを可能にします。外へ出て、地域人材＝まちのキーパーソンと繋がっていくことは、都市部よりも地方の方が小規模な分、出会いやすく、焦点が当てやすく、反発も少ないため展開しやすい部分が多いと思われれます。

これからのライブラリアンは、職員減少、非正規化が進む中で、正規・非正規に関わらず、自分の“まち”とどう関わり貢献していくかについて考えなければなりません。そこにはファシリテーター、コーディネーター、プロデューサーとしてのスキルが試されます。失敗を恐れず、それぞれの得意分野を活かして地域に合った関わり方を模索していかなければなりません。館長自ら率先して“まち”と関わっている田原市図書館の取組を聞いて大変励みになりました。